

本市の全国学力・学習状況調査結果概要

平成29年11月

本調査の目的は、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析し、その成果を検証して学習指導の改善を図ることなどであり、平成19年度から文部科学省が実施しているものです。今年度の調査は4月18日に悉皆で行われ、本市では、全校にあたる小学校14校（6年生551名）、中学校10校（3年生628名）が参加しました。

調査内容は、国語、算数・数学の2教科で、主として「知識」に関する調査問題Aと、主として「活用」に関する調査問題Bの2種類、小学校と中学校で各4種類ずつ実施されました。また、学習習慣や生活習慣等に関する児童生徒質問紙調査と、各校の校長が回答する教育環境に関する学校質問紙調査も実施されました。

本県が引き続き全国トップクラスに位置している中、本市の小・中学校は、国語、算数・数学のいずれも平均正答率で全国を上回っており、市全体としては基礎・基本の定着が図られているといえます。しかし、学校によって差が見られるという課題は解消されておらず、少人数指導の充実などによる指導方法の工夫・改善を継続すると共に、学び合いを充実させることで、確実な定着が図られ、一人一人の学びが更に高まるようにしていきたいと考えています。

小学校においては、国語AB共に、平均正答率が全国を上回っています。特に話し合いの仕方に関する力が定着してきているといえます。しかし、全国と同様に、目的や意図に応じて書く力などに課題が見られました。算数Aは全国平均正答率を上回っており、基本的な計算の技能は定着しているといえます。算数Bも全国を上回っており、これまで課題とされてきた記述式の問題について改善が見られていますが、定着が不十分と判断される問題もありますので、実態に合わせた回復指導が求められます。

中学校においては、国語AB共に全ての領域で正答率が全国を上回り、昨年度と同様に記述式問題の正答率が高くなっていますが、古典作品の理解や、相手に分かりやすく伝える話し方などに課題を残しました。数学Aは全国平均正答率を上回っており、小学校と同様に、基本的な計算の技能が身に付いている生徒が多いと言えます。数学Bも全国を上回っているものの、筋道立てて説明することや数学的な表現を用いて説明することなどに課題があります。

質問紙調査からは、小・中ともに、ゲーム・メール・インターネットに使う時間が長いという実態は改善されていないことが分かりました。また、テレビを見る時間やゲームをする時間のルールを家の人と決めていた子供の割合が県の結果よりも低くなっていることから、家庭での時間の使い方を家族と話し合い、工夫していく必要があるといえます。地域と関連した設問においては、地域に出て行く経験はあっても、意識の高まりにつながっていないという課題が見られました。

平成30年度の調査については、国語、算数・数学に加え、再び理科を含めた3教科及び児童生徒質問紙について悉皆により実施されます。今後も、確かな学力、豊かな心を育むことができるように、指導の充実が一層期待されています。

全国及び秋田県の平均正答率一覧（今年度、県の平均通過率は整数値で発表されています）

〈小学6年 平均正答率〉

	国語A	国語B	算数A	算数B
秋田県	80	64	84	50
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

〈中学3年 平均正答率〉

	国語A	国語B	数学A	数学B
秋田県	82	78	68	52
全国	77.4	72.2	64.6	48.1

小学校国語について

国語A「主として知識に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、3領域1事項とも全国の平均正答率を上回っています。

特に「話すこと・聞くこと」では、「考えの共通点や相違点を整理しながら進行に沿って話し合うこと」が全国より7ポイント程度上回り、話し合いが定着していることを示しています。

「手紙の構成を理解し、後付けを書くこと」と「俳句の情景や表現の特徴を捉えて読むこと」については、課題が見られますので、指導を一層充実させる必要があります。

【手紙の構成を理解し、後付けを書く】

「書くこと」の「手紙の構成を理解し、後付けを書く」ことに課題が見られました。国語科の授業においては、手紙全体の構成や、後付けにおける署名と宛名の位置関係など、手紙の基本的な形式の定着を図る指導が必要です。また、国語科との関連を図りながら、依頼状や案内状、礼状など実際に手紙を書く学習活動を、各教科等に意図的・計画的に設定し、手紙で交流することのよさを実感できることが大切です。

国語B「主として活用に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、全国と比較すると、「話すこと・聞くこと」が9ポイント、「書くこと」が8ポイントと、どちらも全国を上回る高い正答率を示しています。また、記述式問題の平均正答率も11ポイント以上全国を上回っているなど、各学年での指導が確実に行われていることが結果として現れています。

「話し合いの前後の流れを手掛かりにして発言の意図を捉える」ことに課題が見られましたので、交流により自分の考えを深める場を設定し、確実な定着を図る指導が必要です。

【目的や意図に応じ内容を整理して書く】

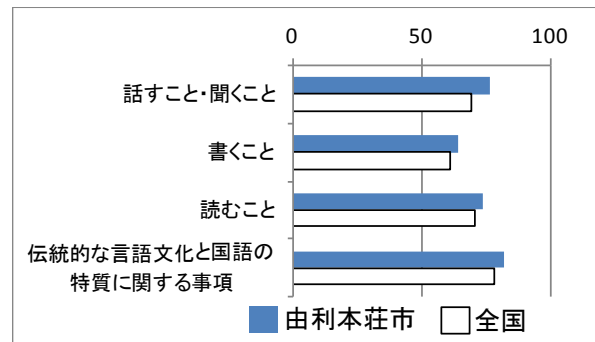
「書くこと」の「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く」ことは全国的に平均正答率が低く、本市も同様でした。

取材した事柄の中から必要な情報を取り出し、目的や意図に応じて整理して書く力を高めるためには、新聞やリーフレット、ポスターなどで協力を依頼する文章の作成等の学習活動の工夫が考えられます。国語科以外でも事柄を整理し簡単に書く活動を設定し確実に定着させることが大切です。

質問紙調査から〈国語の学習について〉

「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童は、今年度も全国比を10ポイント上回っています。意見を発表したり書いたりするとき、話の組み立てを工夫したり根拠を明らかにすることに気を付けている児童の割合が高いことから、思考・判断・表現する意識をもって学習に取り組んでいることがうかがえます。

<小学校 国語A（領域）の正答率>

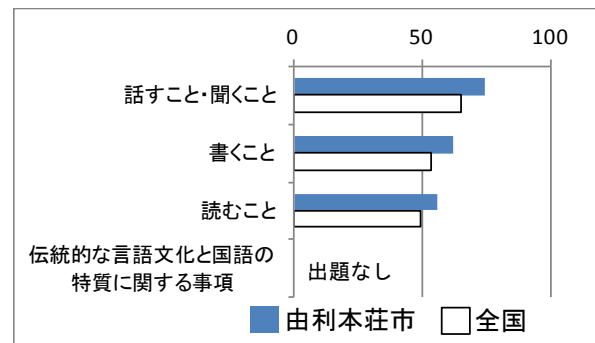


【俳句の情景や表現の特徴を捉えて読む】

「読むこと」の「心情や場面についての描写をとらえ、優れた叙述について読む」ことに課題が見られました。

俳句の指導に当たっては、季節感や風情、言葉の美しい響きやリズムに触れ、作者の思いについて想像したことを交流する場の設定が重要です。句会の開催など、交流を通して俳句の特徴に気付き、考えを深め、言葉の持つ豊かさや多様性を感じることができると言語活動の工夫が求められます。

<小学校 国語B（領域）の正答率>



【発言の意図を捉え自分の考えを深める】

「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」ことの部分に課題が見られました。ものの見方や考え方を広げるためには、考えの共通点や相違点を明らかにしながら交流する活動の設定が重要です。国語科の授業では、自分の考えがどの叙述に基づいているのか、その理由も明らかにしながら交流することにより、さらに自分の考えが明確になることを実感させる学習経験を重ねることが大切です。

中学校国語について

国語A「主として知識に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、全てにおいて4～5ポイント全国を上回る平均正答率を示しています。特に「読むこと」では、「場面の展開に着目して読む」出題において、全国より6ポイント上回る結果となっており、文脈に即して語句の意味を的確に捉えながら読む指導が、日常的に行われていることが分かります。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「古典作品の種類を理解」に課題が見られますので、今後の指導の充実が求められます。

【古典作品の種類を理解】

「古典には様々な種類の作品があることを理解する」ことに課題が見られました。

古典を学習する際には、和歌、俳諧、物語、随筆、漢文、漢詩などその種類の違いを指導するとともに先人のものの見方や考え方を学ぶ機会にもなります。能、狂言、歌舞伎、古典落語などの古典芸能に関しても、写真や動画等を用いたりしながら興味関心を喚起する学習活動が効果的です。

国語B「主として活用に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、全てにおいて全国を上回る平均正答率を示しています。特に「書くこと」が8ポイント、また昨年度同様記述式問題の平均正答率が9ポイント以上と全国より高く、思考力、判断力、表現力を高める指導が定着してきていることが分かります。今後の指導にあたっては、表現の仕方を捉えて考えを書くことや、事実や事柄を分かりやすく相手に伝える指導の充実が求められます。

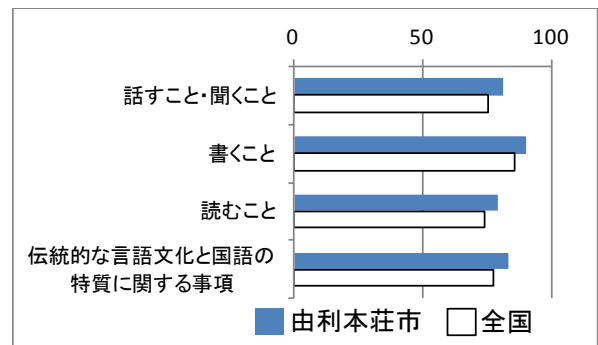
【表現の仕方を捉え自分の考えを書く】

「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」ことに課題が見られました。文学的な文章を読んで、印象に残った場面や描写を取り上げ、具体的に説明し、交流する活動の設定が有効です。また、比喩や反復などの表現技法の効果、書評、本のポップ等について話し合うことも自分の考えを再構築していくために効果的です。

質問紙調査から＜国語の学習について＞

「国語の勉強は好きだ」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、全国より11ポイント程度上回っています。また、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている」という質問については昨年度同様に全国よりも20ポイント上回っています。さらに小学校と同様に、意見発表や自分の考えを伝える際、話の組み立てや理由を明確にするよう気を付けている割合も高く、積極的に発信し、実生活に生きる国語の力を高める授業実践が行われていることがうかがえます。

＜中学校 国語A（領域）の正答率＞

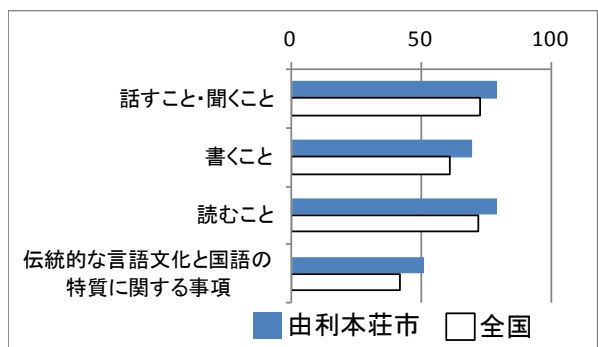


【事象・行為を表す多様な語句の理解】

「事象や行為などを表す多様な語句について場面や状況に応じて適切に使う」ことに課題が見られました。

「再検討」「保留」など言葉として知っていても実際の場面や状況に応じて使う場面を設定する必要があります。授業では学級会など具体的な場面を取り上げ、その場に応じた適切な言葉について考えたり調べたり確認したりする学習活動が有効です。

＜中学校 国語B（領域）の正答率＞



【事実や事柄を相手に分かりやすく伝える】

「相手の反応を踏まえながら事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるよう工夫して話す」ことに課題が見られました。スピーチは、自分の伝えたいことが聞き手に対して十分に伝わる内容であるかを考えて構成し、相手に応じて話すよう指導する必要があります。授業では、録画や録音機器を用いて自己評価できる環境設定も必要です。

小学校算数について

算数A「主として知識に関する問題」の結果

平均正答率は、全国平均より6ポイント以上高く、県平均より1ポイント高い数値を示しており、基本的な知識や技能は十分に身に付いていることがうかがえます。

今後の指導においても、これまで本市が目指してきた授業スタイルを継続させながら基礎・基本の定着を図りつつ、特に、問題文を正確に読み取ることや考えの過程に沿って丁寧に解き進めていくことの必要性を確認しながら指導することが大切です。

【□を用いて、問題場面を式に表す】

文脈通りに数量の関係を立式することに課題が見られました。場面を的確に捉えることができるように、図を用いたり、□に具体的な数値を当てはめたりして考察する活動を通して実感させていくことが大切です。低学年段階から、場面、図、式を関連付けて考えさせたり、表した式を振り返ったりする活動を大切にしていけることが、式に表現する能力の育成につながります。

算数B「主として活用に関する問題」の結果

全ての設問において、正答率は全国平均よりも高い数値を示しています。本市の継続課題として挙げられてきた記述式の問題においても、全国平均より6ポイント以上、県平均よりも1ポイント以上高いという結果でした。

今後の指導にあたっては、未完成の考えや誤答を取り上げて学び合ったり、他者の考えや説明について吟味したりする場面を設定し、適切に判断したり、解釈・表現したりする力を一層伸ばしていくことが望まれます。

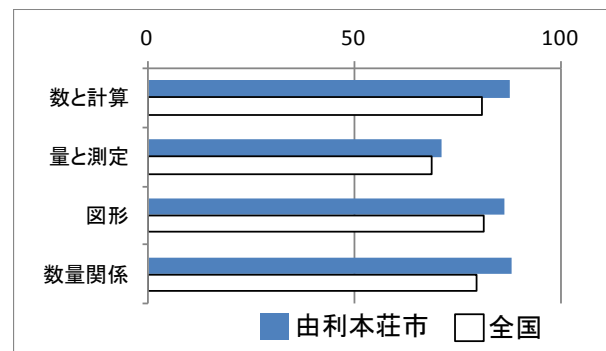
【平均を求める式を判断する】

平均を求める式を判断することに課題が見られました。適切に平均を求めることができるようにすることのみならず、式の意味を説明したり、飛び離れた数値を除いて平均を求めることが適切かどうかを場面と関連付けて考察したりする活動を通して、日常生活の問題解決に算数が活用できることを実感させていくことが大切です。

質問紙調査から〈算数の学習について〉

算数の学習の仕方については、全ての項目において、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計が、全国の数値を上回っています。「諦めずにいろいろな方法を考える」「もっと簡単に解く方法がないか考える」「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」の割合はいずれも85%を超えるよい結果を示しており、課題を設定して学び合う、探究型の授業を積み重ねてきた成果であると考えます。また、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」「学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」の割合は90%を超える高い数値を示しており、板書とノートを連動させることや、算数のよさや有用性を実感させる場の設定を意識した取組が、児童の姿となって現れていることが伺えます。これからも引き続き、児童が実感を伴って理解できるような授業づくりを心がけていくことが望まれます。

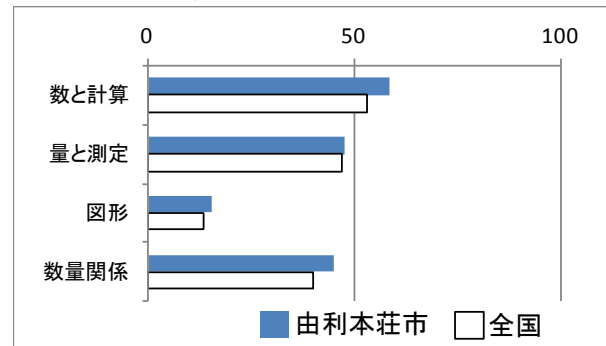
〈小学校 算数A（領域）の正答率〉



【任意単位による測定】

量の比較や測定においては、直接比較、間接比較、任意単位や普遍単位による測定について、それぞれのよさを理解し、新たに学習する量の比較や測定に活用できるようにすることが大切です。長さやかさなどの異なる種類の量の比較や測定の方法について共通点を見だし、統合的に捉える活動に取り組みさせるなど、児童が実感的に理解できるようにすることが望まれます。

〈小学校 算数B（領域）の正答率〉



【示された割合を解釈し、判断する】

示された割合を基に、基準量と比較量を捉えることについては、継続課題として挙げられます。基準量1に対する割合を百分率で表したときに、半分が50%になることや4等分が25%になることを捉えたり、それらを基にして比較量の大きさを見積もったりすることを、テープ図等を活用しながら丁寧に指導することが大切です。

中学校数学について

数学A「主として知識に関する問題」の結果

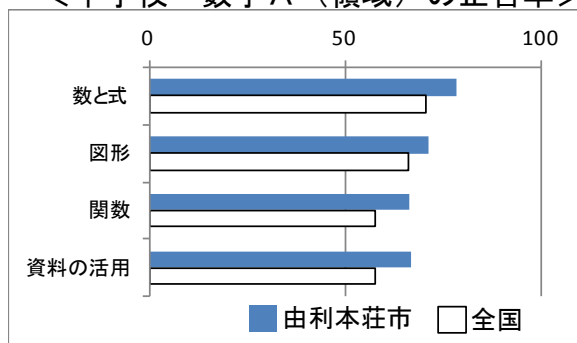
本市の平均正答率は、全ての設問において全国平均より高い結果です。領域毎に見ても、全国平均を5～9ポイント、県平均を2～4ポイント程度高い数値を示しており、基本的な知識や技能は十分に身に付いていることがうかがえます。

今後の指導にあたっては、数学用語を適切に用いて説明する場面を設定し、用語の意味理解を深めることが必要です。

【空間における直線と平面の平行】

直線に平面な面と直線を含む面を混同している生徒が少なくないことが考えられます。空間における直線や平面の位置関係を考える際には、立体の見取図を見るだけでなく、身近な立体を見たり、実際に触れたりしながら、様々な方向や視点から観察する場面を設定し、考察の対象を顕在化させた上で直線や平面の位置関係を捉えさせることが大切です。

<中学校 数学A（領域）の正答率>



【関数の意味】

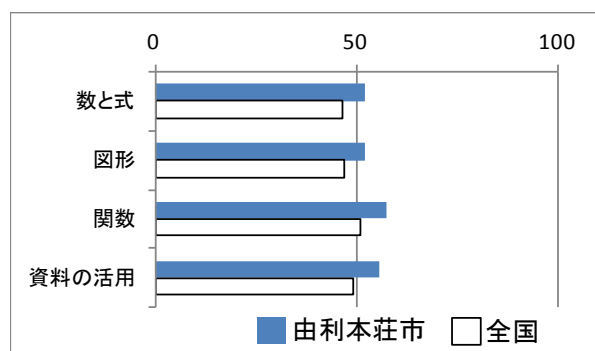
「…は…の関数である」という形で表現する際には、独立変数と従属変数との違いを意識させることが必要です。関数関係を見いだす活動においては、一方の値を決めると他方の値がただ1つに決まることを確認することだけではなく、一方の値を決めても他方の値がただ1つに決まらないような関係も取り上げながら、関数の意味の理解を深めることが大切です。

数学B「主として活用に関する問題」の結果

平均正答率を領域ごとに見ると、4領域全てにおいて全国平均・県平均を上回る数値を示しています。

今後の指導にあたっては、筋道を立てて考えて証明したり、数学的に説明したりする活動を充実させ、思考力や判断力を伸ばしていくことが大切です。また、説明し、伝え合う場面を設定する際には、伝えることのみならず、他者の考えを理解することに重きを置いた活動にしていくことが必要です。

<中学校 数学B（領域）の正答率>



【筋道を立てて考え、証明すること】

与えられた条件を整理したり、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたりすることについては、継続課題と言えます。結論から仮定、仮定から結論の両方向から考えて証明する場面を設定するなどの工夫が必要です。また、対象となる図が重なっている場合においては、抜き出した図で確認するなど、丁寧に指導することが大切です。

【資料の傾向を捉え、数学的に説明すること】

資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。異なる大きさの資料を相対度数を用いて比べたり、度数分布多角形を用いて資料の特徴を捉えたりしながら、根拠を明確にして事柄が成り立つ理由を説明する場面や資料の傾向について話し合う場を設定することが大切です。

質問紙調査から<数学の学習について>

「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」、「解き方が分からない時は、諦めずにいろいろな方法を考える」などの項目においては、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」の合計が、全県や全国の数値を上回っており、板書と関連させたノート指導や、授業の中に比較・検討を中心とした学び合いを位置付けてきた成果であると考えます。一方で、「数学ができるようになりたいと思う」については、全県や全国よりも低い数値となっています。生徒に数学の楽しさや有用性を味わわせながら、日常生活との関連について実感させることや、単位時間の中に適用場面や振り返りの場面を設定し、生徒一人一人が学びを通して達成感や成就感、効力感を味わえるような授業を積み重ねていくことが大切です。

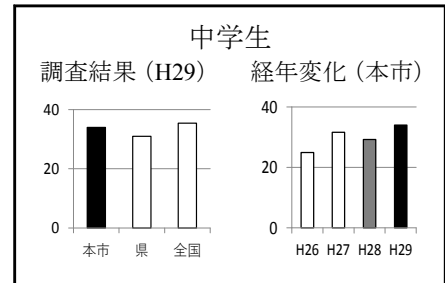
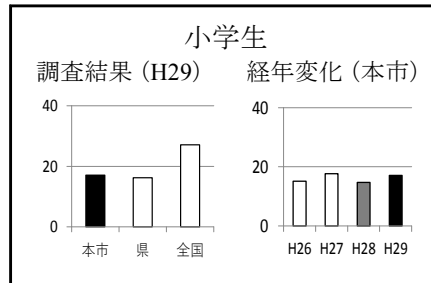
児童生徒質問紙について

質問紙調査は、小学校が92項目、中学校が94項目に及び、学習習慣、生活習慣等幅広く質問されています。その中で注目すべき項目や今後に生かせる項目について抜粋して考察しました。

なお、この調査では本市の小学校6年生550名、中学校3年生628名が回答しています。

1【学校の授業時間以外に、普通日に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか】 質問番号（15） 《2時間以上の割合（3時間以上を含む）》

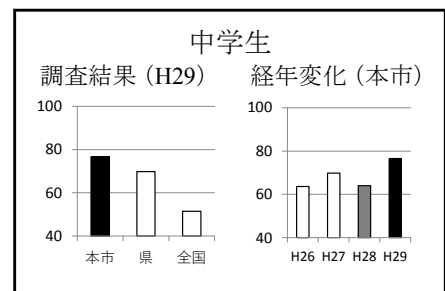
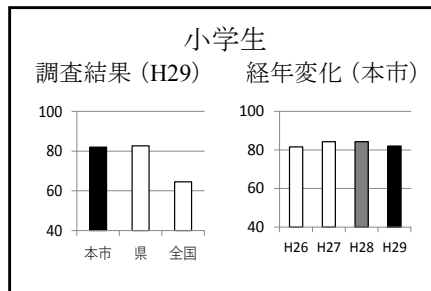
学校以外で、平日勉強している時間については、本市の小学生の64.9%、中学生の54.0%が1時間から2時間と答えています。一方、3時間以上じっくり取り組む割合は全国に比べて、小学校が6.8ポイント、中学校が6.4ポイントも下回っています。テレビゲームや携帯電話・スマートフォンの使用に2時間以上費やす小学生の割合は全国平均・県平均とほぼ同じであり、中学生の割合は県平均とほぼ同じで全国平均より下回っているという実態から考えると、平日帰宅後の時間の有効な使い方について、児童生徒に問題意識をもたせていく必要があると考えます。



2【家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか】

質問番号（小学校：29、中学校：31）《している、どちらかといえばしている割合》

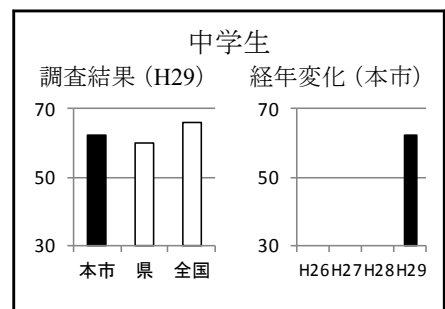
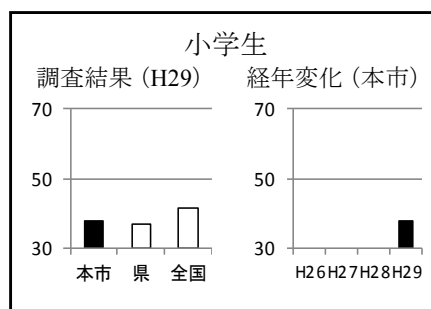
家で、自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合は、小学生が82%、中学生は76.6%でした。小学生は県平均並みですが昨年度より若干減少したのに対し、中学生は12ポイント以上増加し、県平均・全国平均を大きく上回る結果となりました。家で学校の復習をしている割合は、小学生が91%、中学生が86%であり、その日の授業で学んだことを振り返り、家庭でも自分に必要な学習に主体的・計画的に取り組むことができる児童生徒が増えていると考えられます。小学校段階から、与えられた課題だけでなく、自ら考えて意欲的に家庭でも学習する姿勢を身に付けさせるため、個別の支援を更に充実させていくことが望まれます。



3【テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていきますか】

質問番号（小学校：26、中学校：28） 《あまりしていない、していない割合》

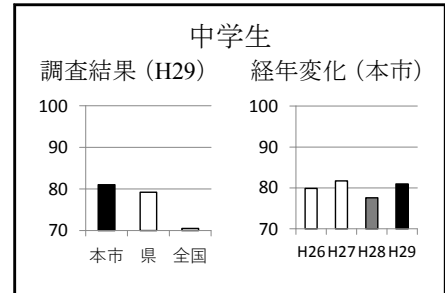
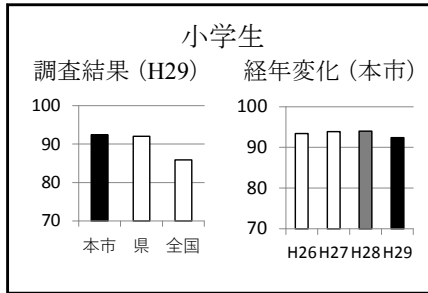
テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていない小学生の割合は37.8%、中学生は62.4%で、全国平均は下回ったものの県平均を若干上回る結果となりました。この他、携帯電話を所持しているが使い方について家の人との約束がない、約束はあるが守っていないと回答した児童が9.3%、生徒が21.2%もいることから、心身ともに健全で、規則正しい生活習慣を身に付けさせるため、学校と家庭が連携を図りながら指導していく必要があります。



4 【将来の夢や目標を持っていますか】質問番号（10）

《当てはまる、どちらかといえば、当てはまる割合》

小学生の92.4%、中学生の81.0%が将来の夢や目標を持っています。小学生は、県平均並みですが前年度より1.6ポイント減少しています。中学生は、前年度比+3.6ポイントで、全国平均を10ポイント以上も上回っています。この要因の一つとして、各中学校で3～5日間実施されている職場体験学習や地域出身者を講師として迎えて実施する進路講演会などを通じた、「ふるさと教育に根ざしたキャリア教育の充実による成果」が挙げられると考えます。引き続き、小・中連携を意識した、系統的・継続的なキャリア教育を一層充実させていくことが望まれます。

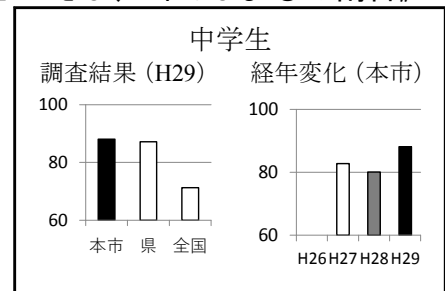
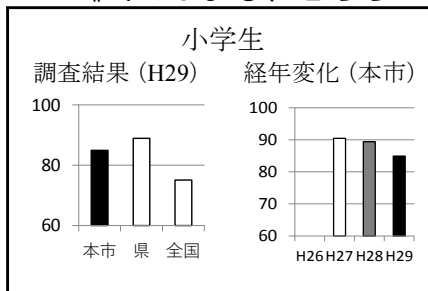


5 【前学年までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか】質問番号（小学校：58、中学校：60）

《当てはまる、どちらかといえば、当てはまるの割合》

学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思うと答えた児童生徒の割合は、小学校84.9%（前年度比-4.5ポイント）、中学校88.1%（前年度比+8ポイント）で、全国と比べるといずれも上回っています。

学級やグループで話し合い、発表し合うなどの言語活動を充実させることは、確かな学力を育てるために必要不可欠です。各校においては、引き続き全校体制で「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に努めていくことが重要であると考えます。



6 【地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか】

質問番号（小学校：41、中学校：43）

《当てはまる、どちらかといえば、当てはまる割合》

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると答えた児童の割合は74.9%、生徒の割合は73.0%でどちらもほぼ県平均並みの結果でした。昨年度の結果と比較すると、中学生はほぼ同じでしたが、小学校では10ポイント近く下がっています。

地域で行われる行事やボランティア活動に参加する割合は昨年度とほぼ同じで、県や全国の平均を上回っていることから、地域や社会への関心が薄れているとは考えにくく、コミュニティ・スクールを基盤とした「ふるさと教育」「キャリア教育」を一層推進していく中で、地域のよさや地域の一員としての再認識を深める教育活動の充実を努めていくことが大切であると考えます。

